



CHARTERED SEPT.11.1953

## Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2020



019 - 20 会長主題

### もっと地元を身近に感じようぜ！

あずさ部長	赤羽美栄子（松本）	「あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために」
東日本区理事	山田敏明（十勝）	「勇気ある変革、愛ある行動！」
アジア太平洋地域会長	田中博之（東京多摩みなみ）	“ Action！ ” 「アクション！」
国際会長	Jennifer Jones(オーストラリア)	“ Building today for a better tomorrow ” 「より良い明日のために今日を築く」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠・金本伸二郎  
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

### 東京山手クラブ 解散特別号

2020年6月

<評価の月>

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため

6月の例会およびヨルダン会は

中止します。

#### ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう  
義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty  
that accompanies every right ”

#### 6月 HAPPY BIRTHDAY

上妻清子さん 8日 尾内昌吉さん 14日

#### 5月報告

会員在籍数	11名
例会 中止	
	メネット 一名
会員出席率	—%
ゲスト・ビジター	一名
	合計 一名
ニコニコ	— (累計 25,074円)
B F	国内切手—g 外国切手—g

#### 今月の聖句

目の見えない人を導いて知らない道を行かせ  
 通ったことのない道を歩かせる。  
 行く手の闇を光に変え  
 曲がった道をまっすぐにする。  
 わたしはこれらのことを成就させ  
 見捨てることはない。

イザヤ書42:16

#### 特集 「山手ワイズと私」

東京山手クラブ解散に当たり、ラストメンバー  
 11名がそれぞれの思いを書きました。併せて、  
 OB1名からの寄稿を載せました。



## 東京山手ワイズメンズクラブ 解散のご挨拶

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げますとともに、YMCA とワイズダムへのご奉仕に対しまして心から敬意を表します。特にこの度のコロナウィルス感染拡散では様々な活動が中止の事態になりましたが、ここは皆さまとともに収束の日を早く迎えられることを祈ります。

さて、突然ではありますが、東京山手ワイズメンズクラブは本年6月末日をもって解散することになりましたことをここに報告申し上げます。当初は6月に解散記念例会を企画しておりましたが、コロナウィルス感染症のパンデミックが収束の兆しもないため残念ながらこれを取りやめて、本状をもちましてご挨拶を申し上げる次第でございます。

当クラブは東京クラブの子クラブとして1953年9月11日付で国際協会の認証を得、10月24日に西早稲田の東京YMCA山手ランチで開催された日本区東部地区大会に併せてチャーターナイトを挙行し産声をあげました。以来66年にわたり、YMCAの活動を支援すると同時に、多くの青年・社会人を巻き込んで地域に奉仕してまいりました。当クラブからは日本のYMCA運動、国際ワイズメン運動に献身的にリーダーシップを発揮した先輩方も輩出し、また子クラブを設立し、他クラブに巣立って活躍中のメンバーも大勢おります。

近年は東京YMCA山手学舎の舎生応援、東日本大震災後の支援にも微力ながら携わってまいりました。2013年には創立60周年記念例会を多くのメンとともに祝わせていただきました。最近では地元の住民と外国籍の人たちの交流促進に貢献しようと山手YMCAと検討を進めておりました。

しかし、残念ながら次世代の人材を発掘し得ないままメンバーの高齢化は進みました。そして協議を重ねましたが、クラブ活動を継続するのは難しいと判断せざるを得ず、ここに解散するという結論に達した次第であります。

解散するにあたって当初はクラブ最後のチームワークとして解散記念例会を催し、そうすることで先達に敬意を表し、これまで他クラブやYMCAの皆様から頂いたご厚情に感謝する予定でした。そしてチャーター・メンバーズがクラブを設立・育成したパイオニアチームであったとすれば、私たちは堂々と幕を降ろすラスト・メンバーズになろうと考えておりました。今やその計画は実行出来なくなりましたが、せめて皆さまに感謝の思いを伝え、私たちのこの心意気を分かち合いたい、とあえてここに書き起こしました次第です。

私たちラスト・メンバーズは今後それぞれ示された道を歩んでまいります。東京山手クラブのメンバーとして積んだ経験、ワイズへの情熱、繋いだ絆は大切にしていきます。どうぞこれからもよろしくお祈りいたします。

ご家族の皆さまの健康と生活が守られ、また貴クラブがますますご発展されますことをお祈りし、解散のご挨拶とさせていただきます。

平安

2020年6月吉日

ラスト・メンバーズ

上妻英夫 浅羽俊一郎 飯島隆輔 飯島愛子  
飯野毅与志 尾内昌吉 尾内規子 金本伸二郎  
功能文夫 中村孝誠 星住秀一 (担当主事)

思い出アルバムから



山手YMCA会館 1953年11月寸景



山手YMCA・ワイズ合同クリスマス会



区大会ホストクラブ 東山荘にて



クラブ60歳 総力結集!



奉仕も例会もユーモアたっぷり!



夏はやっぱり納涼例会

山手クラブと私

上妻英夫



デンマーク・ヘアニング国際大会 ネットと

1961年5月、東京クラブ坂村友三会長から、新会員バッジを付けていただいて以来、59年になる。

ちょうど東京クラブ30周年記念のため、会員増強の年でもありました。入会当時先輩ワイズの田中真雄兄曰く、クラブは教会でない。教会色は無く、クラブに馴染む様になりました。中富会長の下で会計を、後藤純一会長の時に副会長として沼津クラブ設立訪問、千葉・埼玉両クラブ設立委員長を経験した。1977年～8年日本区東T・C。

79～81年2期、日本区EMC事業主任歴任。

80年、9クラブチャーター、竹内敏朗理事がヘルシンキ国際大会場で表彰された。

80～81年3クラブチャーターしました。

81年5月突然・来期北東部長に指名され、2年前から未解決の北東部（15クラブ）2分割も各位の良識で解決しました。

お陰様で、82年韓国国際大会席上で国際会長ジョセフ・オム会長から、オロナブル・メンション賞を頂くことができました。

東京多摩クラブでは、私も東京クラブから移籍して、クラブ作りに奔走する。

クラブ設立5年後、突然、韓国漢陽クラブからIBCを申込まれたが辞退した。何故なら韓国名門クラブに対応出来ない。再度来たのは上妻がいるからとのこと、クラブに計り受諾したのです。

87年上妻会長、8月末より、YEEP学生受け入れる。転入高校は子息の母校校長先生の快諾で決まり、最初8月末から10月30日迄東京グリーンクラブ、其処から翌年4月4日上妻受け入る、以降北

クラブ磯部成文兄が夏帰国迄世話して下さいました。東京多摩クラブも武蔵野クラブと合流、東京武蔵野多摩と改称、発展した。在籍中のクラブも遠距離に感じるようになり、近所のLCの誘いに入会。

ちょうど飯島隆輔兄から山手クラブへのお誘いに、2005年1月、二つ返事で転会したのです。以来居心地良く、青鹿会長から一泊ヨルダン会に誘われ、満喫する。2006年7月、飯島兄があずさ部長就任、部書記上妻、会計尾内昌吉兄が指名されました。同年10月、創部10周年記念部会を開催、112名の参加者で盛会でした。

私のクラブ会長は2017年7月～18年6月迄会長主題「共に行動 共に喜びを」。

初の7月例会、部長公式訪問、部長大野貞次兄が山手に要望したのは4名会員増強、平伏して受け賜った。大変な課題それに部の主査諸兄姉がお見えになり、有意義な例会でした。8月は予定通り進行し、9月2日DBC大阪茨木クラブ25周年記念祝会、尾内兄と参加して御祝を申し上げました。会場には百数十名の地元の方々と、茨木クラブが如何に地元密着のサービスを行っているか分かった次第です。

10月例会「知って得する保険」刻々変わる保険業界について溝口昭成講師が適切に説明下さった。11月3クラブ合同例会ゲストには、入船亭扇蔵師匠の移動高座、大勢の集まりで正に移動末広亭となりました。12月例会は、元Y主事木崎敏夫兄の巧みな話術・手振りで会場の皆を動かして笑い、時間を過ぎるのを忘れてしまう程でした。

1月は次年度役割決定、山手センター耐震工事・休館中の例会場選定について話し合われました。2月例会、山手学舎支援について話し合いました。3月例会「地域興しはSNSでストリートネーミング」と題して澤村隆兄のお話、約30余名の参加者にご満足をいただきました。

4月例会 我々が最も関心のある沖縄について「沖縄・・本土の人は知らない基地の話」講師は西昭英氏、私達が殆ど知らない沖縄を分かり易く説明して下さい、考え方も変わらなければと思いました。5月は「人道支援について」浅羽兄がUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通しての人道支援の現状を説明されたのです。

6月、年度最後の例会、6月18日の大阪北部地震、震源地に近いDBC大阪茨木クラブの皆様にご挨拶の寄書きをお送りしました。

これが山手ワイズとのお別れ文になりました。有難うございました。

「指とめし 永き思いも 雨となる」



2012年 会津 Y's 訪問の折に

山手クラブ解散を前に、自分のワイズダムとの繋がりを振り返ってみた。

まずは江東ワイズ。一癖も二癖もあるお歴々から社会人・主事への手ほどきを受けた。ワイズが頼もしく、好きになった。山手YMCAでは山手クラブと出会ったが、大きなランチではなかなか接する機会が無かった。千葉YMCA 出向中はワイズ担当が楽しく、家族ぐるみで交わりに参加させてもらった。

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 転職後、東京UNHCR駐在中2003年に山手クラブに入会したのはやはりYMCAと繋がっていたかったから。だがパキスタン転出までの2年間は例会に出るのがやっとで、クラブ内交流もせず、ましてや他クラブ、部、区は視野の外。

退職後は安心できる仲間がほしいと2009年に再入会。少し深入りしてみようと、横浜国際大会にマーシャルでデビュー。素晴らしい世界が眼前に開けた。山手メンとは奉仕・議論・懇親・諸大会参加で親しくなり、60周年例会を共に祝えた。他クラブ訪問、あずさ部長、ユース委員、LT委員、国際本部ボランティアなどは貴重な経験もした。私のワイズネットがこのように広がったのも山手クラブがあつてこそ。

今やワイズ史に名を残すだけになるろうが、私にはいつまでも「母クラブ」山手であり続ける。長い間仲良くしてくれた仲間には感謝あるのみである。



私は27歳の時からワイズメンズクラブの会員になり(担当主事)、それ以来、武蔵野、山手、沖縄那覇、埼玉、仙台の各クラブに通算46年間ワイズに属し、多くのワイズと親交を深めました。山手クラブには三度合計20年間籍を置きました。ワイズとYMCAはそれぞれの組織は別、別団体ですが私の中では同じものであり、ワイズは欠くことが出来ない存在でありました。

YMCAはそれぞれの時代に、それぞれの地域や人々のニーズに応じて様々なプログラム、事業を生み出して提供し、人々を結び付けて、またそこに参加する人たちも成長する団体であり運動です。ワイズはYMCAの活動の一部を担う存在です。私はそういう思いをもってワイズに参加し活動を楽しみました。地域社会に仕えるということは何かをするだけではない、YMCAの理念、目的に賛同し様々な支援をすることです。青少年を育てること、人々を集めて結び付け、共に成長することがYMCAの使命ですからその理念に賛同して支援することがワイズ一人一人の業です。

私の中ではワイズとYMCAは一体です。そのような思いで私はワイズの活動に参加してきました。楽しかったです。そして多くの人たちと出会い、感化を受け成長させていただきました。出会った多くの方は既に天に召されましたが、一人一人の言葉や行動を思い出しています。

## 山手ワイズと私

飯島愛子



### 自作の前で

今から十五年前のことになりますが、山手ワイズのメンバーはほとんどが男性で、女性は鈴木田祐子さん、尾内規子さん、社本美穂子さん、福村佐和子さんと私でした。社本さんの父上の淵田多穂理さんはYMCAの歌(若人のあつきのりは)やワイズソング(いざ立て)の歌詞を作られた方です。社本さんとは例会の時は趣味の写真や絵の話をよくしてくださり、銀座でされた個展を見る機会がありました。ご主人が油絵、社本さんが写真でした。ご主人の出張について外国によく行かれたようで、私にとっては羨ましい存在でした。そのうちいつか私も銀座で個展をしたいと思っていましたが、念願が叶って数年後に私も銀座で七宝焼の個展を開くことができました。社本さんは女子聖学院で数学の先生をされましたが、数学より音楽が好きで本格的に指揮学を学んだ方で、山手ワイズ五十周年記念の時は女子聖学院の卒業生による合唱団の皆様による歌を聞かせて下さいました。日本の良き時代の歌が披露されて、とても美しい音色が心に残っています。

時代が少し後になりますが、もう一人山手ワイズには歌を作った人がいます。浅羽俊一郎さんです。浅羽さんが四十年前、YMCA主事の時代に作った「ずんごろ節」は子ども達に人気の歌で、今でもYMCAのキャンプで歌われています。浅羽さんはYMCAで数年働いた後に国連職員になり、国連難民高等弁務官事務所に勤務されて中近東やアフリカで難民支援の困難な仕事をされました。今でも仲間とジャズバンドを組んで新宿で演奏しています。

私は主人と共に沖縄、仙台、埼玉、東京で幾つものワイズにメネットとして参加し、沢山の方々とお知り合いになれたことを感謝しています。

## 山手クラブと私

飯野毅与志



東京むかでクラブに長く入っていて、そのあと石井会長さんの後谷治会長さんがやっていた東京セントラルクラブに入りましたが解散になり、2014年7月から山手クラブに入れていただきました。

山手クラブで一番楽しかった。例会はたんぼぼクラブとの合同例会は良い例会でした。山手クラブは解散しても、たんぼぼクラブはみんなで、越智会長さんの健康を助けてやっていってほしいと思います。

最後にコロナの収束した後は新しい時期、時代が来ると思います。新しい型で人と人が新しい方法でコミュニケーションをする時が来ると思いますが、ワイズメンズクラブも新しい時にあった、新しいワイズメンズクラブになっていったら良いと思っています。

山手クラブも良いワイズメンズクラブでした。私の一つの良い思い出として残ると思います。長いことありがとうございました。感謝しています。山手ワイズメンズクラブの皆さまそれぞれのクラブに転会するなりそれぞれの新しい道へ行かれてもお元気で過ごしてください。



たんぼぼクラブと一緒に

## 山手ワイズと私共 尾内昌吉 規子



奈良さん、増野さんをお迎えして

私は 1992 年に入会、感激と緊張を覚えた入会式を未だに忘れません。妻は 2002 年に入会以来ワイズライフを共に楽しんでまいりました。

例会をはじめ、東日本区大会から世界大会に至るまで 2 人そろって参加し多数の方々との親交を深めて参りました。特筆すべき思い出を述べますと

- ① 40 年間のサラリーマン生活の後 15 年間喫茶店を 2 人で営みました。その間ワイズの皆様には大変お世話様になり、ヨルダン会も当店で開いて頂きました。また竹内敏郎元国際会長をはじめ多くの方々のご来店を賜り厚く感謝しております。
- ② 2008 年私が会長の時、山手クラブ 55 周年記念として「山手学舎支援コンサート」を開催した際ご出演くださった中島豊子さんは実は妻の声楽の先生で、妻の依頼で快くお引き受けくださいました。奈良さんから山手らしい催しだと言われたのが嬉しく思いました。
- ③ 60 周年記念誌の編集に当たり増野肇さんから奈良信さんとお会いしたいとの依頼があり拙宅での打ち合わせを考えました。当時奈良さんは拙宅近くの「リハビリセンター」に通われていましたし妻も利用していましたので許可を頂きリハビリ終了後拙宅にご案内し「奈良ブシ」を 3 時間伺いました。写真はその時のものです。今思えば走馬灯の如くワイズの皆さんの顔が浮かびますが、特に海軍兵学校の大先輩加藤寅尾さん（大阪茨木クラブ）、竹内隆さん（東京西クラブ）にはアンカーである私に折あるごとに声をかけて頂いたことを感謝申し上げます。

「Change!2022」を目指す時に当たりクラブ解散、退会となり大変心苦しく思っておりますが「ラストメンバー」として一言

「老兵は死なず、ただ消え去るのみ

## 感謝 金本 伸二郎



2009 年 4 月 21 日、時の東京山手クラブ会長・尾内昌吉さんに導かれて入会。武蔵野クラブの宮内さんが証人としての立ち合い人になってくださいました。55 歳の時でした。同じ勤務先会社の大先輩がおられたことも驚きでした。

爾来、どちらかというワイズの精神とはかけ離れた、お客様的な会員生活でしたが、その中で、それぞれ 1 年間の会長職、あずさ部での奉仕もさせていただきました。不器用な私は仕事との両立がままならず、山手クラブやあずさ部の皆様などの助けを得ながら行いましたがご迷惑をかけっぱなしでした。この紙面を借りて、改めてお詫びと御礼を申し上げます。

山手クラブでは、ソシオドラマ、地球の温暖化問題、日本における外国の方の生活問題、福島の問題と課題、海外情勢等々多くの社会問題を学ばせていただきましたが、そればかりでなく、ジャズや落語なども学ばせていただき、本当に感謝しています。

東京山手クラブの解散は実に寂しいし、ここまで育て守ってきてくださった諸先輩に誠に申し訳ない思いでいっぱいです。ご寛容いただけるのでしょうか。

入会から 10 年余の時間が経過し、新生山手クラブを目指そう、という意見もあった中、66 歳になった私はこれからのワイズの生活を、住まいに近い所沢クラブでおくことにさせていただくことにしました。ニコデモのような戸惑いの声を発しつつ、新しいワイズメンの生活を始めます。



川越東日本区大会にて

1982年6月、51歳の時に奈良昭彦さんの誘いで山手クラブに入会しました。当時の山手は若返りを図っていた時期で、会員は約30人、平均年齢は52歳ぐらいでした。チャーターメンバーの吉江誠一さん、芳賀敏彦先生、奈良信さんをはじめ、田辺正忠先生、奈良常五郎さん、星野達雄さん、菰渕輝彦さん、加藤寅尾さん、小山五郎先生、青鹿博明さん、鈴木田通夫さんなど多士済々、年齢も職業も様々、偉ぶらず元気に熱心に例会に出席しておられる姿に自分もかくありたいと思ったのでした。82年には上林順一郎牧師、小山正直さんも入会しました。

87年7月～89年6月に会長を務め、88年7月には京都国際大会に参加しました。そして88年9月には山手クラブ創立35周年記念の集いを開催、その中で山手の若手、奈良昭彦さん、神保伊和雄さん、原敏彦さん、白石克人さんたちによる東京サンライズクラブの旗揚げ宣言があり、89年（平成元年）5月に山中湖センターでチャーターナイトが挙行されました。そのサンライズが2019年に創立30周年を迎え、6月の第22回東日本区大会ホストの大役を見事に果たしたことは親クラブにとっても大きな喜びでした。

90年代に入ると、奈良澄江会長の活躍、橋本正明さん、増野肇さん、尾内昌吉さん、越智京子さん、前田直孝さん、御園生好子さん等の入会があり、非常に活気が出て来ました。

92—93年度には南東部長を務めることになり、初めて部内各クラブを訪問する貴重な経験をしました。中でも沖縄那覇クラブ訪問は戦跡巡りも含めて心に残りました。

97年に日本区は東と西とに分かれ、山手クラブはあずさ部にはいり、第1回部会は山手がホストしました。

そして98年に、山手は45周年を迎えました。私は山手クラブの10年誌、25年誌、ブリテン、「日本ワイズメン運動70年史」等を調べ、諸先輩のご寄稿もいただいて、「山手ワイズの45年1953—1998」を作成することができました。

2000年6月、東山荘での第3回東日本区大会（中田靖泰理事）をホストした時の山手の平均年齢は65歳ぐらい、全員が力を出し合い、サンライズやDBCの姫路グローバル、地元御殿場、沼津、三島3クラブの応援、Y3Eのお手伝いもいただきました。約500名のワイズが参集、寛仁親王の特別講演も頂き、「手作りの大会」、「皆に感動を与える素晴らしい大会」と皆様から喜んでいただき、大変思い出深い大会になりました。

2010年8月、横浜国際大会では奈良信さんがバランタイン賞受賞という喜びもあり、記憶に残る大会になりました。



2013年9月、山手クラブ60周年記念例会を開催、たくさんのクラブからご出席の皆様をお迎えして盛大に楽しく迎えることができました。

山手の一員として私が受け持った役割で一番長期に関わったのはブリテン編集で通算16年になりました。印刷・発送では中村さんに特にお世話になりました。

91年に杉並区から我孫子に移り住みましたが、89歳になるまで38年間も山手につながり続けられたのは、山手の皆さんとの交わりが楽しみだったことと、さらにそのつながりが他クラブのたくさんのワイズに広がる魅力のおかげだったと思います。そして、山手センターの皆さん、お世話になりました。本当に有難うございました。



## 山手ワイズと私

中村孝誠



沼津東日本区大会にて

私がワイズに入会したのは確か2006年だと記憶しています。そのきっかけは藤井君（元国際会長）からの電話で「山手センターに来たから一緒に飯でも食おう」との一言でした。久しぶりだったので急いで山手センターに向かうと山手クラブの例会の部屋に連れていかれ、その場で「今度入会する中村君です。よろしく」と勝手に紹介されました。

山手クラブの錚々たるメンバーの中でワイズとは何か解らずただ興味本位に参加している内に次期会長との話があり、全く理解していないので必死にお断りしました。その翌年また同じような話が出て奈良信さんより「もういいのではないか」との一言で断り切れず会長に、その後も会員部運営委員・山手センターコミュニティ委員そして山手学舎の運営委員等を仰せつかり委員会には出ましたがあまり役には立ちませんでした。

特に東京 YMCA のチャリティーゴルフの実行委員長の時にはワイズを中心としたイベントと感じたのでこのままではワイズも高齢化により次第に規模が縮小していくことは間違いないと思い、内向きな体制を改善しワイズ以外の方に参加していただけるようチャレンジしましたが、多少意識の変化はあったものの大きな変化を得ることはできませんでした。今年はコロナ騒動で中止となりましたが、来年のチャリティーゴルフにワイズ以外の多くの方が参加されることを期待しています。

今まで色々なことに興味を持って接しましたが、会員勧誘に就いては2人照会しましたが、2人共1年間で退会となり継続しませんでした。

山手クラブはいくつの子クラブを輩出しましたが、時間とともに先輩方の逝去・退会等により

クラブ人数の減少が大きく、クラブとしての機能が薄れて解散をせざるを得ないと考えました。

山手クラブの先輩方のご指導そして多くのワイズの優しい言葉・行動等に支えられまた多くの方々にめぐり合い楽しいワイズライフを過ごすことができた事を感謝しています。皆さん本当に有難うございました。

## 山手ワイズと私

星住秀一



スタッフと共に

2017年山手センターに着任し、担当主事となりました。山手クラブの担当主事は歴代の山手センター館長が担当するイメージが強く、自分には縁遠い立場とっていました。東京YMCAの会長会・担当主事会では、チャーター順に座席が配置されます。ちょっとしたことですが、歴史と伝統を感じる瞬間でした。

担当主事としての関わりは約3年、YMCAのロゴが新しくなる際の熱い話し合いから始まり、センターの耐震工事中は工夫をして例会を行なってもらいました。地元外国籍の方との交流プロジェクトも少しずつ進み、例会の卓話も見識を高める時間となりました。

終盤は山手ワイズとして山手センターに何ができるか、何をしてきたのか、存続に向け話し合いが重ねられました。

私にとって、人生経験豊かでYMCAや山手センターの歴史を知る山手ワイズの皆さんは、迷ったとき、悩んだときに気兼ねなく相談できるアドバイザーの存在だったように思います。

70年近くに亘って山手センターに関わる方を励まし、精神的な柱となって共に歩み続けていただいたこと、心から感謝いたします。ありがとうございました。

## <先輩ワイズからのご寄稿>

### 感謝あるのみ 福島 正

山手クラブの多彩な人脈、チャーターメンバーの一人、後藤安太郎さんにわたしが最初にお目にかかったのは、兼松 正 副総主事に紹介して頂き、オリジン電気の社長室でした。みずからコーヒーを入れて下さいました。その後藤さんの娘婿が鈴木功男さん（第33代日本区理事）、そのまた、娘婿が西村隆夫さん（前国際書記長）と続くワイズファミリーです。

山手クラブで忘れてならないのが奈良信さんです。あまりにも著名なため語るに紙面を要しますが、第19代日本区理事の他、国際副会長も勤められ、横浜国際大会でバレンタイン賞を受賞されたのは記憶に新しい。下関日本区大会（1974年）の理事報告で、北海道から沖縄まで全国のクラブの活動状況を網羅して、例の「奈良ぶし」で滔々と報告されたのは圧巻でした。



下関日本区大会（左端 星野さん、右端 福島）

奈良さんを援けて、東京クラブから山手に移籍（チャーターメンバー）した辻村克己さんが日本区書記を、鈴木田通夫さんが日本区会計として活躍。鈴木田さんは大阪から東京に転居するとき、奈良傳さんや木下百太郎さんに信さんがいる山手クラブへの転会を勧められたと聞いています。わたしは有難くも理事秘書を拝命し、身近に奈良さんの薫陶に接して、自身のワイズの土台を熟成する大きな1年でした。鈴木田祐子メネットは、日本区メネット事業主任と、国際メネット事業主任の大役も果たされ、ご夫妻揃って活躍されました。

星野達雄さん（第7代東京YMCA総主事）も長く山手クラブにかかわられ、晩年、YMCA人物伝を何冊も書き残されました。

山手クラブは創立5年目に世田谷クラブを、10年目に目黒クラブを、36年目にサンライズクラブを、49年目にたんぼぼクラブをスポンサーされました。

山手会館は、建築家だった奈良さんの遺作であり、山手クラブの67年の歴史の一端に接して思い出は尽きません。すべて、感謝あるのみです。

.....

## 思い出アルバム その2



東山荘 東日本区大会、姫路グローバルの方たちと



東京たんぼぼクラブの親クラブ・山手と東京西（2002年）



大阪茨木クラブとDBC締結（2009年1月）

## YMCAニュース

### ・6月1日より一部プログラムが開始されました。

自粛要請が解除され、山手センターでも感染予防対策を講じながらプログラムがスタートしました。

語学クラスは今後のことも見据え、6月はオンラインクラスを試みることになりました。

プールは定員を通常の半分にし、密集を避けて隔週での実施としました。登録者の3分1が休会となりましたが、約3分2の方が参加されることになりました。日本小児科学会は、「教育・保育・療育・医療福祉施設等の閉鎖が子どもの心身を脅かしており、小児に関しては COVID-19 関連健康被害の方が問題と思われる」と発表しました。安心して参加できるよう、今後も感染予防対策を強化しながら、YMCAができることを進めていきたいと思っております。

### ・会員プログラムの再開は検討中です。

わくわくサロンや日本語教室 (Y I V)、ワイズメンズクラブの例会利用等は、もうしばらく様子を見させていただくことになりました。

今後も新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見極めながら、進めていきます。

### ・サマーキャンプ中止のお知らせ

東京YMCAでは当初、この状況下でも安全で楽しいサマーキャンプが実施できないかと、運営方法を見直すなどして協議を重ねてまいりましたが、依然として不確実な要素が多く、リーダー・スタッフトレーニングを始め通常3カ月以上を要する準備が整えられないことから、やむなく中止と判断いたしました。今後は、感染症の動向や学校のスケジュールなど状況をみながら、デイキャンプ (日帰りプログラム) やオンラインでできるプログラム等を検討します。

YMCAは今年、キャンプ100周年を迎えました。これからの時代にも、キャンプは子どもたちの心身の豊かな成長を育むものと信じています。今夏は、宿泊を伴うキャンプは実施できませんが、ディレクタートレーニング、ボランティアリーダートレーニングを継続すると共にキャンプ場の整備も進める予定です。

### ・山手学舎

5月30日(土)に入舎式がパソコンを使用しオンラインで行なわれ、有住牧師をはじめ、職員、委員、OBの方など22名が参加をされました。初の試みでしたが、関西圏のOBの方も参加されるなど例年通りの温かい式となりました。今年は3名が新たに加わりましたが、合計5名と少ない状況です。引き続きのご支援をお願いいたします。

(星住秀一)

### 東京山手メンバーの7月からの転入会クラブ

上妻 英夫 東京クラブ  
浅羽俊一郎 埼玉クラブ  
飯野毅与志 東京サンライズクラブ  
金本伸二郎 所沢クラブ  
中村 孝誠 東京サンライズクラブ

一層のご活躍を期待いたします。

飯島隆輔、飯島愛子、尾内昌吉、尾内規子、  
功能文夫の5名は退会となります。

## おたより

<上妻英夫さん> 「吊りさがり 腰痛とれし五月風」 小生のビル (5F) の補修工事で錨梯子で吊り下がって体を動かしたためか、腰痛が無くなったのです。今も大丈夫です。

### 編集後記

○解散特別号は、ラストメンバーたちとOBのそれぞれの思いがいっぱい詰まった号になりました。

○「かつてあったことは、これからもあり、  
かつて起こったことは、これからも起こる。」  
(旧約聖書 コヘレトの言葉 1章9節)

東京山手クラブは67年にわたる活動を閉じることになりました。しかし、いつかまた、新しい理想に燃えた人たちが立ち上がって若々しいクラブを山手センターに誕生させることでしょうか。その日が早く来ることを期待しつつ、この特別号をお届けします。

○ワイズの皆様、ありがとうございました。

(功能文夫)